

米原歴史文化街道

米原市の歴史・文化財を歩く (154)

イヌワシ②

―米原市の豊かな自然のシンボル―

イヌワシのくらし

前回紹介したイヌワシ幼鳥の剥製標本は、伊吹山文化資料館で常設展示しています。幼鳥といえども翼を広げると約一八〇センチメートルもあり、その大きさに驚きます。幼鳥には翼や尾羽に白い斑紋がありますが、次第に消えていき、大人になると力強い茶褐色になります。

成鳥は体長七五〜八五センチメートル、体重は三五〜五キログラムで、メスの方がオスよりも大きくなります。立派な羽に覆われているために外見からは分かりませんが、イヌワシは非常に筋肉が発達した鳥です。体重の約半分が筋肉といわれ、中でも足の筋肉は非常にたくましく、かなりの握力を誇ります。自分と同じくらいの重さの獲物ならつかんだまま飛ぶことができ、実際、三年前に子鹿を捕獲して飛ぶ姿が伊吹山で撮影された話題になりました。足先には、カギ爪という約六センチメートルの湾曲した鋭い爪があり、これで突き刺し、ぐとつかまれました。小動物はひとたまりもなく圧死してしまいます。大きく曲がった鋭利な爪

ばしは、武器というよりナイフとフォークに近い役割を持ち、ひなのために、餌を細かくするのに使われます。

イヌワシが好んで捕食するのは、ノウサギやキジ、ヤマドリなどの鳥類ですが、日本ではそこにヘビが加わります。猛禽類ならではのキリリとつり上がった鋭い目の視力は、人間の八倍。一キロメートル以上先の獲物を見分けることができます。だからこそ、数千メートルもの高度で飛翔しながら、草原を走るノウサギを見分け、正確に捕まえることができます。

ひな鳥の生存率は2分の1

日本のイヌワシは、通常二つの卵を産みます。卵は同時にふ化するわけではなく、数日のずれが生じます。すると、先にふ化したひなは、後からふ化したひなをついて攻撃し、殺してしまおうという行動をとります。親はこれをただ見守ります。これは「きょうだい殺し」と呼ばれる、日本のイヌワシに顕著に見られる行為です。生態系の頂点に君臨するとはいえず、実は餌は限られていて、そのため一羽が確実に生き残れるように、このような習

性になったと考えられています。

冬に産卵し、二月ごろふ化したひなは、六月ごろに巣立ちます。一〇月ごろになると、親鳥は次の子育てに向けた準備へと入ります。そのため幼鳥は、親に追い出され、親鳥の生息地から出て行って独り立ちをしなくてははいけません。その後、若いイヌワシがどういった場所へ行き、どのように生息しているかについては実態が分かっています。

漢字で「狗鷲」「犬鷲」と書かれるイヌワシ。なぜ「イヌ」なのかは諸説あります。天狗からとった「狗」の字を当てるのは、空を自由に素早く移動するイヌワシが、日本各地に伝説を残している天狗のモデルだといわれているからです。古くから人との交流があったイヌワシですが、その剥製標本を公開している施設は県内にはありません。ましてや、幼鳥は全国的にも希少です。ぜひ、りりしい若鳥に会いに来て、米原の自然を体感してください。

(歴史文化財保護課)



▲元気なころの幼鳥(昨年7月須藤一成氏撮影)

消費生活相談コーナー

蓄電池の契約は慎重に

太陽光発電の電力買取期間の満了に伴い、訪問販売等で蓄電池を高額で購入してしまったという相談が増えています。

工事代は無料
電気代がお得

消費生活相談員より一言

契約前に、蓄電池の種類や寿命、相場価格、補助金制度等を調べましょう。また、複数社へ見積もりをとるなど契約は慎重に！



「おかしいな」と思ったら
一人で悩まず、
まずは消費生活相談窓口へ
ご相談ください。

市 消費生活相談窓口 (米原庁舎)

相談専用 ☎52-8088

〔受付〕平日9時30分～16時



【米原警察署情報】 米原警察署 ☎52-0110

秋の全国交通安全運動を実施します！

9月21日(月・祝)～9月30日(水)

交通ルールの遵守と正しい交通マナーを身に付け、交通事故防止の徹底を図りましょう。



- ☑ 横断歩道は歩行者が優先です。歩行者がいたら、横断歩道手前で必ず停止し、道を譲りましょう。
- ☑ 歩行者が道路を横断するときは、左右の安全確認と、車の停止を確認し、必ず横断歩道を利用しましょう。



令和2年市内交通事故数(7月末時点)

件数 46件(-8件)、死者 0人(-2人)

傷者 57人(-15人)

※()内は前年比